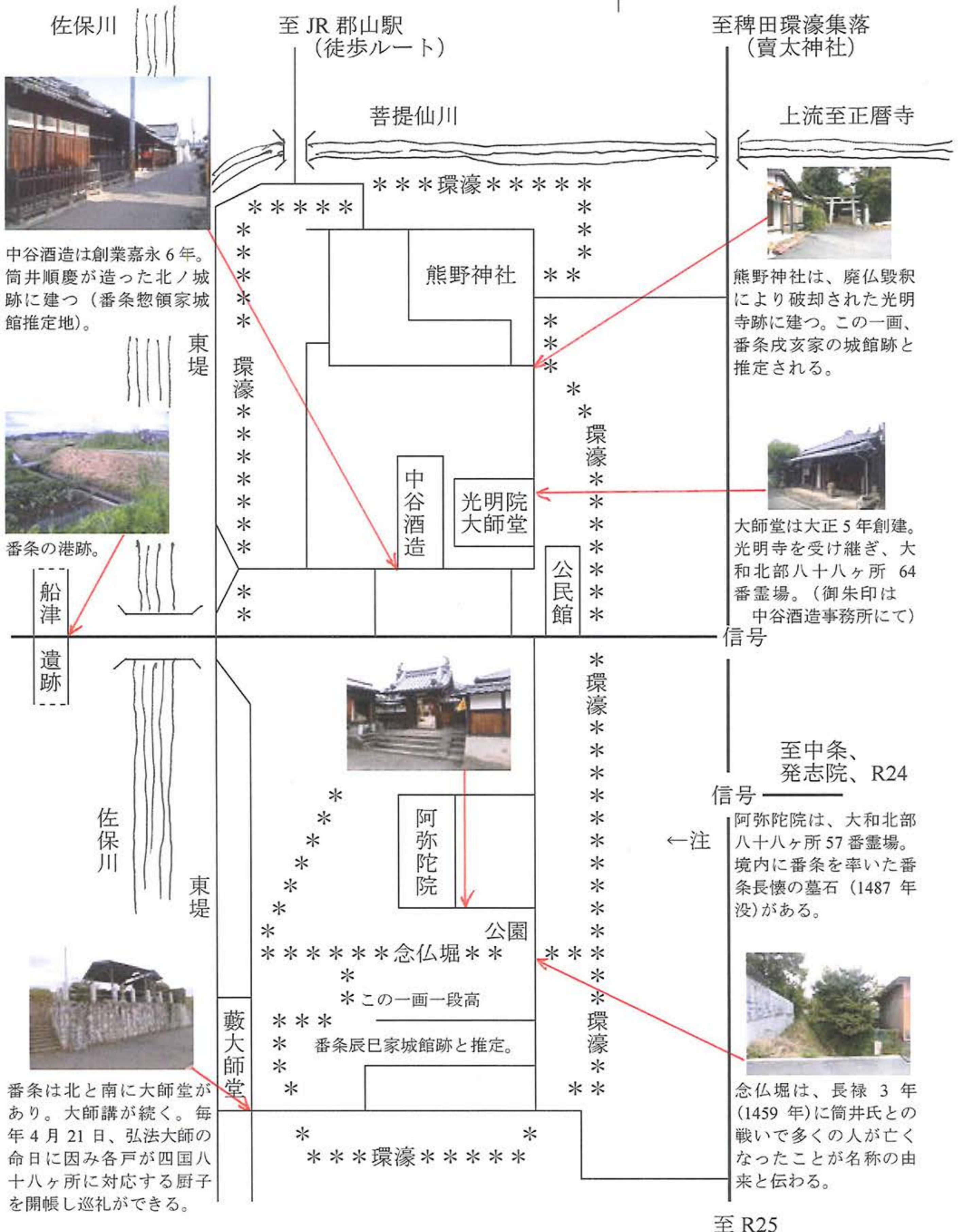


番条町散策ルート

室町時代、番条（ばんじょう）は清酒発祥の地・正暦寺（しょうりゃくじ）の酒を積み出す河川港として整備され、興福寺の衆徒（しゅうと）・番条氏に率いられました。番条氏は惣領家（本家）の他、辰巳家、戌亥家がありました（寺社雑事記文明13年9月後付条）。
江戸時代、奈良盆地北部最大の環濠集落かつ港で、郡山・柳沢藩の物流を支えました。

北
↑



中谷酒造は創業嘉永6年。筒井順慶が造った北ノ城跡に建つ（番条惣領家城館推定地）。



番条の港跡。

熊野神社は、廃仏毀釈により破却された光明寺跡に建つ。この一画、番条戌亥家の城館跡と推定される。



大師堂は大正5年創建。光明寺を受け継ぎ、大和北部八十八ヶ所 64番霊場。（御朱印は中谷酒造事務所にて）

阿弥陀院は、大和北部八十八ヶ所 57番霊場。境内に番条を率いた番条長懐の墓石（1487年没）がある。



念仏堀は、長禄3年（1459年）に筒井氏との戦いで多くの人々が亡くなったことが名称の由来と伝わる。

←注